△2023 Gamakatsu New Kawahagi Rod（写真は黒塗りを施しています）

特報!!

三石忍　鶴岡克則　田中義博
名手3人が企画開発し、ついに完成

★がまかつスタッフ3人が全面バックアップして発売にこぎ着けたニューロッド。この日は3人そろって最終プロトを持参しての初釣行だった

カワハギファン注目
今秋、がまかつから最強ロッドデビュー

◉「カワハギ釣りが確実に上達する竿です」と三石さん

★がまかつの既存モデルを超えたハイスペックとのこと

▶出船前のひとコマ。三人三様、3モデルあることが判明

◉うっとうしい梅雨が明け夏が近づいてくると、にわかにカワハギファンが活気づく。シーズンの到来を控え、各社からカワハギ関係の新製品が続ぞくと発売されるからだ。そんな中、いち早くがまかつからニューロッドの情報が届いた。

「私たち3人が企画から製品の完成まで、すべてにかかわって作り上げた竿なんです」

この日、三浦半島久比里の山下丸に集まったのは、がまかつテクニカルインストラクターの三石忍さん、同フィールドテスターの鶴岡克則さん、田中義博さんの3人。と聞けばカワハギファンならご存じのはず、カワハギの全国大会制覇を始め、常にトーナメントの上位に名を連ねてきた方たちだ。

その3人が人目をはばかるように持参したのは、がまかつからこの秋に発売されるカワハギのニューロッドだそうだ。

「まだ一般に公開もされていないんですけど、その前に一度3人そろって使ってみたかったんです」と三石さん。

カワハギ竿への思い入れは3人とも人一倍強い。がまかつがそれぞれの熱意を集約し、今秋ニューロッドの発売を決定。もちろん企画開発の時点からかかわり、何度も試釣を繰り返しながら微に入り細に入り修正を施し、ようやく完成版に至ったというわけだ。

ところで、カワハギ釣りといえば誘いから合わせに至るまで釣り方は人それぞれ。竿の硬軟、調子、長さなどの好みも違うはずだ。そのあたりを聞いてみると、

「釣り方はそれぞれ違います。3人の個性を引き出すことによって3タイプの設定となりました。これが硬軟の調子違いにもあり、どんな釣り方にも合うようになっているんです」

投げてカーブフォール～ゼロテンを駆使する鶴岡さん、誘い下げからゼロテン、キャストから宙まであらゆる釣り方をこなす三石さん、主にバーチカルな誘いでとくに宙釣りが得意な田中さんと釣り方は三者三様。確かにこれを1タイプの竿でまかなうのは難しい。そう考えると3タイプあれば、色いろな釣り方ができそうに思える。では、どんなスペックなんだろう。

「詳しくは今の段階では言えませんが、どちらかといえば攻めのカワハギ、エキスパート仕様です。本体や穂先の素材の選定、ガイドやグリップ周りに至るまで3人の釣り方を生かした仕上がりとなっています。そうそう、今回は竿のデザインまで私たちが考えました。とてもかっこいいんですよ」

そこまで聞くとカワハギファンならずとも、すぐにでも詳細を知りたいものだが、品名やスペックなどの公開は7月15日とのこと。今しばらく待つしかないようだ。

宙の釣りに最適ですが、横の釣りにも応用できます

田中義博モデル

三石忍モデル

ハイエンドモデルだけど初心者にもすすめたいんです

まるで魔法にかかったようにアタリが取れますよ

鶴岡克則モデル

新製品の公開は7月15日発売の次号で。

★田中さんはバーチカルな誘いで数を重ねる

★三石さんは様ざまな釣り方を披露

★鶴岡さんはトレードマークの両手持ちで

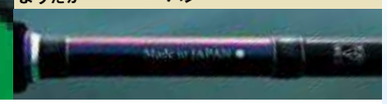
◉2023秋、がまかつからカワハギ竿の新製品が発売される。同社から発売されているカワハギ竿のラインアップは「デッキステージカワハギ」「シーファングカワハギ」の2種だが、このたび発売される新製品は前機種をさらに上回るハイスペックモデル。三石さんによれば、「これまでにない感度、操作性を体感できるのはもちろんですし、3本の竿にそれぞれ個性を持たせてあるのが特徴です」

その名も「がまかつ■■■■■■■■■■■■」

発売予定は10月上旬、黒塗り名称の公開、スペックなどの一般公開は7月15日発売の本誌次号で、またがまかつHPでも7月中にも公開予定。

★刻印された「KTS」の意味は……

▲一見して3本とも同じ穂先のようだが……



▼安心、信頼のメイドインジャパン

取材協力◉三浦半島久比里・山下丸 ☎046・842・8856